

モーリタニア月例報告  
(2025年4月)

2025年5月  
在モーリタニア日本国大使館

【外政】

4月18日                   ブー経済・財務大臣の訪日

【軍事】

4月3日                   ブラジルとの軍事・安全保障分野での協力覚書締結

【経済協力】

4月17日                   アブドゥッラーヒ・スバイ氏に対する在外公館長表彰  
授与

## 【外政】

### ● プー経済・財務大臣の訪日

(4月18日付、当地財務・経済省掲載文)

#### 1. 財務省

18日、プー経済・財務大臣は、東京の財務省本庁舎にて、財務省で国際業務を担当する藤井大輔副財務官と会談した。会談では、モーリタニアと日本の今後の協力の展望について協議が行われ、特にJICAが提供する譲許的な資金調達メカニズムを通じたモーリタニアへの支援の可能性や、本年8月に横浜で開催予定のTICAD9に向けた準備状況などが議論された。

この会談には、エル・ハージュ(H.E. Mr. Sidiya Ould El Hadj)在京モーリタニア大使、タハ(M. Sidi Ould Tah)アフリカ開発銀行(AfDB)総裁選挙候補が同席した。

#### 2. 国際協力銀行(JBIC)

18日、プー経済・財務大臣は、東京で日本の林信光JBIC総裁と会談した。会談ではJBICとの協力の可能性について意見が交わされた。JBICは、海外進出を図る日本企業への支援や、プロジェクト受入国における開発資金調達及び雇用創出に資するウィン・ウィンのパートナーシップを実現可能とする、外国との連携による共同事業への資金提供を行っている。また、JBICは融資に対する保証の提供も行っている。

この会談には、エル・ハージュ在京モーリタニア大使、ラム(Ms. Aissata Lam)モーリタニア投資促進庁(APIM)長官、シー(Mr. Sy Mamadou)資金局長、タハAfDB総裁選挙候補が同席した。

#### 3. JICA

18日、プー経済・財務大臣は、東京のJICA本部にて、安藤直樹JICA理事と会談した。会談では、JICAとモーリタニアとの協力関係、特に漁業、海洋研究、職業訓練、技術支援といった分野におけるJICAの取組みに焦点が当てられた。またヌアクショット・ネマ間の高圧送電線建設に対するJICAの資金協力の課題の解消方法について議論された。さらにモーリタニアが開発資金調達や雇用創出のためにJICAの提供する譲許的資金調達メカニズムを活用する資格への道を開く、公的債務の管理及び財政枠組みの改善に係るポジティブな指標についても議論された。最後に本年8月に横浜で開催予定の第9回TICADに向けた日本側の準備についても協議された。

この会談には、エル・ハージュ在京モーリタニア大使、ラムAPIM長官、シー資金局長、タハAfDB総裁選挙候補が同席した。

#### 4. 外務省

18日、ブー経済・財務大臣は、東京の外務省本庁舎にて、松本尚政務官と会談した。この会談では、モーリタニアと日本の協力関係、特に漁業、農業、職業訓練、食料安全保障といった分野における関係について意見交換が行われた。JICAの資金協力メカニズムを通じて、モーリタニアに提供される可能性のある支援、また本年8月に横浜で開催予定のTICAD9の準備状況について話し合った。

この会談には、エル・ハージュ在京モーリタニア大使、タハAfDB総裁選挙候補が同席した。

#### 【軍事】

##### ●ブラジルとの軍事・安全保障分野での協力覚書締結

(4月3日付、モーリタニア国軍Facebook)

1 4月1日から4日にかけてリオデジャネイロで開催される第15回防衛・安全保障展示会(LAAD)に、シディ防衛・退役・殉教者子女大臣が、ブラジル側の招待に応じ参加した。

2 本展示会の傍ら、同大臣は、モンテイロ・ブラジル国防大臣及びアマロ・ブラジル大統領府安全保障局長官と二国間会談を行った。

3 会談では、二国間の軍事協力の強化、安全保障面での連携、機密情報の保護について協議され、この協力を具体化するための覚書2件が締結された。

#### 【経済協力】

##### ●アブドゥッラーヒ・スバイ氏に対する在外公館長表彰授与

4月17日、大使公邸で、大使館が開館する前の1990年代に、我が国が当地に足がかりがない中で、食糧援助(KR)実施の円滑な実施に貢献したアブドゥッラーヒ・スバイ(M. Abdellahi SBAI)食料安全保障庁(CSA)長官補佐(日本担当)に対する在外公館長表彰の授与を行ったところ、概要以下のとおり。

##### 1 大使祝辞

(1) スバイ氏の長年に亘る支援に感謝。日・モーリタニア関係促進というミッションにおいて、我々は同氏の有能かつ友好的な助言に大きく助けられ、おかげで両国間関係を深め、拡大することができた。

(2) スバイ氏の功績を本日すべてご紹介することはできないが、その中でも

最近CSAとともに実施したトラルザ州及びブラクナ州におけるマイクロプロジェクトの視察についてお話したい。同視察では、日本の援助が、水の供給、農業、服の生産等の分野において地元住民に効果的に貢献していることを見ることができた。特に、これらのプロジェクトが、社会的発展への女性参加に貢献していることに感銘を受けた。これらの視察は貴重な経験であっただけでなく、地元住民からエネルギーを感じることができた。

(3) この忘れがたい視察を含め、これまでのスバイ氏の支援、功績及び努力に謝意を表す。

## 2 スバイCSA長官補佐（日本担当）謝辞

(1) 始めに、ご参列の皆様にご挨拶及び御礼申し上げます。また、本式典を開催してくれた貴使及び貴館に感謝する。定年退職を迎える私にとって、30年以上の日本との協力及び交流を最も美しく締めくくるものである。

(2) 日本との協力は、挑戦であるとともにチャンスでもあった。挑戦とは、日本の友人たちが模範的な厳密さと方法論をもっており、時に私たちモーリタニア人を特徴づけるある種の軽さやおおざっぱさとは対照的であるからである。しかしそれはチャンスでもあり、彼らとともに仕事をすることで、単純な待ち合わせであれ、協定条項の忠実な適用であれ、明確さと決定事項の厳格な遵守の重要性を学ぶことができた。

(3) この30年で、日本のモーリタニアに対する特に食料安全保障分野における援助の重要性及び一貫性を目にすることができた。脆弱なモーリタニア人への食糧の配布であれ、隔離された数百の村での飲み水の供給事業への資金援助であれ、そして地元住人が生計を立てるための活動への支援であれ、日本の支援は明白に重要である。貴使も、現地の視察を通じてそれを確認することができたであろう。

(4) すべてを今列挙することはできないが、日本の協力は保健、教育、漁業という我々の国の重要かつ戦略的分野にも及ぶ。

(5) 最後に、このように表彰して下さったことに対し、貴使に心より御礼申し上げます。日本のように尊敬すべきパートナーからこのような表彰状をいただくことは私にとって単なる名誉ではなく、対話、協力、相互尊重を特徴とする長いキャリアが認められたということである。また個人としては、この名誉は長年のコミットメント、共通の努力そして我々のコミュニティに希望をもたらすプロジェクトをたたえるものであり、この栄誉は深い誇りの源でもある。またこの名誉は、私が長年に亘り貢献することを優先してきた両国の強く永続的な絆を象徴するものでもある。

### 3 アブダワCSA副長官謝辞

(1) 貴使及び日本に対し、日本からモーリタニアへの様々な分野における支援に改めて謝意を表す。特にCSAとの協力においては、多くの脆弱なコミュニティ及び市民を支援しており、全モーリタニアが日本のモーリタニアへの貴重な援助を認識している。

(2) スバイ氏は、その熱意、日本のリーダーシップや仕事の実用性等を通じた学びにより、CSAにとっても優秀な人材であり、代わりを見つけるのが困難なほどである。そのため、我々はスバイ氏に、引き続きCSAを導いてくれるよう依頼したのである。彼の優秀さは、全CSAから認められている。

(3) 定年を迎えても、スバイ氏のキャリアは終わらない。彼は我々の関係を強化、改善するために貢献し続けるであろう。CSAを代表し、日本のモーリタニアへの支援に感謝するとともに、我々の協力が今後も続くことを期待する。我々と共に働いてくれるスバイ氏にも感謝する。



(了)